

先輩社員に聞く電気工事の魅力



指示待ちではなく、積極的に動くことが大切

尾上 椋之介

田中電気株式会社
工事部

2015年3月卒業 同年4月入社
出身校 日本工学院専門学校

―― どのような形で就職活動に取り組みましたか？

尾上 就職活動を始めた当初から電気工事会社で働きたいという気持ちが強かったです。そのため、まず担当の先生に電気工事会社へ就職したい意思を伝え、さまざまなアドバイスをもらいました。

その後はインターネットを中心に自分でもいろいろと調べ、できる範囲の情報収集をしました。特に各社のホームページは重点的に見ましたね。やはり、知りたい情報を得るためには外せない情報源です。

―― 就職先を決める上での基準はありましたか？

尾上 電工を希望していたこともあったので、まず電工を募集している電気工事会社ですね。それと、さまざまな種類の工事を経験したいと考えていたので、得意先が豊富であることも大きなポイントでした。

―― 田中電気に入社した動機を教えてください。

尾上 電工を募集していたことが一つ。実際、電工を募集している会社は少なかったですね。もう一つは、アットホームな雰囲気です。実際に田中電気の会社説明会に参加して感じたことですが、担当者の印象が非常に良かったです。抽象的な表現になりますが、自分の感覚を信じて正解でしたね。

―― 現在はどのような仕事を担当していますか？

尾上 事務所ビルの新築工事を担当しています。現場での作業は基本的に一人ですね。これまでは、マンションの新築工事を多かったので、事務所ビルは実質初めて経験する現場です。マンション工事とはまた違った難しさや面白さがあると思いますので、頑張っていきたいです。

―― 現場代理人はコミュニケーションが重要とされていますが、電工はどうでしょうか？

尾上 電工もコミュニケーションは重要です。指示されたことをしっかりやることは当然ですが、指示を待つだけでなく、こうした方が良いのではないかと感じたことは、現場代理人や他業種の間人、他の電工にも伝えることが重要だと思います。

―― 先輩とのコミュニケーションについてはどうですか？

尾上 先輩は分からないことがあれば、聞いてほしいと言ってくれます。もちろん、何回も同じ質問を繰り返せば、怒られることもあります。分からないことはそのままにせず積極的に聞き、同じミスを繰り返さない意識が求められます。

分からないことをそのままにははいけません。そのことが施工ミスや工期の遅れに繋がり、結果的に得意先や会社に迷惑をかけてしまう可能性もあるからです。

最初から上手くできる人はなかなかいません。変なプレッシャーを感じずに、ある種新人の特権だと思って、積極的に質問をしてほしいですね。

―― 仕事上ではどういった部分に喜びを感じますか？

尾上 初めて一人で現場を担当してみると言われた時は感動しましたね。多少なりとも会社や先輩から実力を認められたのかなと感じました。

仕事する中で自分で考え、分からないことがあれば先輩に質問するなどを繰り返していたことが、成果として実ったのだと思います。

これは多くの人が感じていることだと思うのですが、自分が関わった建物で初めて照明に明かりがついた時は、何度経験しても感動しますね。それと、たまに担当した建物の前を通った時も、何とも言えない嬉しさがこみ上げてきます。どちらとも、建設業や電気工事業でなければ経験できない貴重な瞬間です。